

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	物流・産業	25年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 港営課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト				
事務事業名	飛島ふ頭物流効率化モデル事業(集中管理ゲート)の推進	延伸	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7871	
目的	対象(誰・何を)	飛島ふ頭内の道路渋滞、ゲート待ち				事業 期間	平成20~26年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	飛島ふ頭内の道路渋滞、ゲート待ちの解消等を目的として、集中管理ゲートを整備し、効果の検証を行い、本格運用を図ります。					
概要	国・港湾関係者と連携し、飛島ふ頭内の各コンテナターミナルのゲート業務を一箇所に集約する「集中管理ゲート」をモデル事業として整備・運用しており、関係者と協力し、効果の検証を行います。				根拠 法令等		
26年度の実施予定	国・港湾関係者と連携し、集中管理ゲートの有効性、効率性等の効果の検証を行います。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
					関連 シート		

2 DO(実施)

26年度に実施した内容・結果	国・港湾関係者と連携し、名古屋港飛島ふ頭物流効率化検討委員会や集中管理ゲートWGにおいて、集中管理ゲートの有効性、効率性等の効果の検証を行いました。					
コスト	単位	24年度	25年度	26年度	合計	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	0	0	0	0	
人件費	千円	3,787	3,776	3,852	11,415	
合計	千円	3,787	3,776	3,852	11,415	

3 CHECK(検証)

指標名		24年度	25年度	26年度	最終目標	26	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
検討会・作業部会の回数(回)	目標	-	-	5		5	集中管理ゲートWG2回 名古屋港飛島ふ頭物流効率化検討委員会3回 計5回	
	実績	4	4	5		5		
(単年度管理型)	事業進捗状況(26年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る			
	目標							
	実績							
事業進捗状況(26年度)								
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	検討会・作業部会については、目標回数を参加し検証は進んでいますが、周辺道路を改良中であり、集中管理ゲートで全量取り扱うことができず、検証が終了していないため本格運用には至りませんでした。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	<input type="radio"/> 集中管理ゲートには、ゲート業務の平準化や処理能力の向上、渋滞解消等の効果が期待されており、国のモデル事業として行われる効果の検証について港湾管理者として関与していく必要があると考えています。						
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	<input type="radio"/>						
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	<input type="radio"/> 集中管理ゲートの本格運用には、ゲート機能集約の取り組み方針の確立が必要であり、関係者間での調整を行うことで、課題の解決に貢献すると考えています。						
	期待どおりの成果が得られているか?	<input type="radio"/>						
効率性	最小のコストとなっているか?	<input type="radio"/> モデル事業の事業スキームは適正であり、関係者間の調整や検討を行うワーキングや委員会(事務局:国)を活用しているため、経済的と考えており、本組合としても積極的に効果の検証に関与する必要があると考えます。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	27年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
延伸	維持	維持	平成23年から国のモデル事業として、集中管理ゲートの整備・運用が行われていますが、引き続き、事業の有効性及び効率性等の効果の検証を図る必要があるため。(26年度→27年度に延伸)
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題	27年度以降の取組		
平成23年から国のモデル事業として、集中管理ゲートの整備・運用がされていますが、引き続き、事業の有効性及び効率性等の効果の検証を十分に図る必要があります。(H26→H27に延伸)	国・港湾関係者と連携し、集中管理ゲートの有効性、効率性等の効果の検証を行います。		